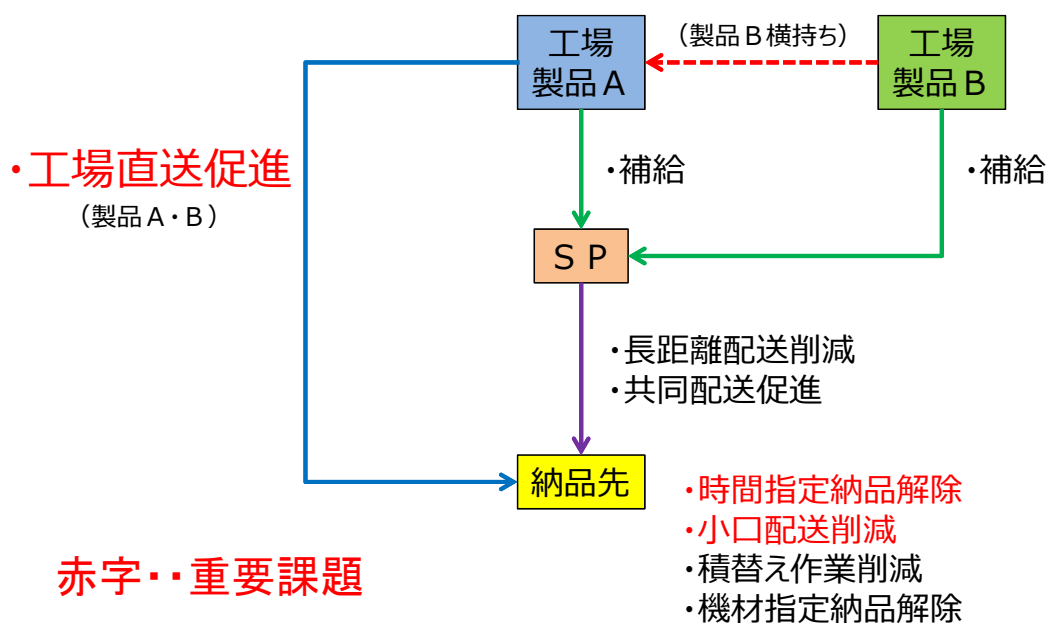


# 「配送効率化」・「返品削減」 2017年度

大塚製薬株式会社2018.07

## 「配送効率化」

配送車両が効率良く利用されるよう（台数削減、回転率アップ）重点項目を設定し、営業現場の協力を得ながら改善に取り組んだ



※製品 B 横持ち：製造していない製品を工場間移動し工場直送の対象拡大

大塚製薬株式会社2018.07

## 「配送効率化」

配送車両の効率的な活用に繋がる項目の改善  
2016年度に引き続き、2017年度も継続実施。

重点項目	施策	期待される効果
<b>工場直送促進</b>	大型トラック1車単位の発注を工場から直接納品する（約千ケース） 生産していない製品を工場間移送し、工場直送の対象先を拡大	工場から直接納品するのでS Pへの入出庫、S Pからの配送トラックの削減（直送1回で5台分）
<b>長距離配送削減</b>	規定以上の長距離配送を削減	配送車両の効率利用
<b>共同配送促進</b>	グループ会社製品、他社製品との共同配送	配送車両の効率化 小口配送の削減
<b>時間指定納品解除</b>	「9時」や「午前」などの納品時間指定の解除	効率のいい納品ルート 配送車両の有効活用・台数削減
<b>小口配送削減</b>	1回納品数を80ケース以上に	納品回数の削減 配送車両台数削減
<b>積替え作業削減</b>	パレットの積替え作業削減	納品時間の削減 配送の効率化
<b>機材指定納品解除</b>	2t車指定などの制限の解除	配送車両の有効活用 車両削減

大塚製薬株式会社2018.07

## 改善結果

	納品軒数	納品回数	納品数量	1回納品数	数量比率	
					2016年	2017年
<b>総計</b>	3.4%	-1.4%	5.1%	6.8%	100%	100%
<b>工場直送</b>	5.3%	22.4%	21.1%	0.2%	13.9%	15.2%
<b>時間指定</b>	2.0%	-2.9%	2.3%	5.6%	54.1%	53.9%
<b>小口配送</b>	0.2%	-4.0%	-2.5%	1.7%	29.2%	28.7%

注力した3項目、全てで改善が見られた。

大塚製薬株式会社2018.07

## 「配送効率化」まとめ

<b>改善結果</b>	<p>配送効率化に一番効果の高い工場直送比率が上がった          その他重点項目についても1回納品あたりの数量が増え、総量は増えているが納品回数は減っている          結果、前年に比べ配送車両が削減され効率的な配送が実現された          物流費に関しても大きく改善された</p>
<b>問題点・課題</b>	<p>重点項目については今後も継続しないと効率が下がってしまう          時間指定解除や小口配送削減は納品先にとってメリットが無いので交渉が難しい</p>
<b>今後の検討</b>	<p>重点項目の改善推進          発注を曜日指定とし、配送車両の均一化          工場直送、事前発注、まとめ発注の促進（インセンティブの検討）          商品の倉庫への引取り          納品待機時間の改善          D 2 配送</p>

大塚製薬株式会社2018.07

## 「返品削減」

### 実態の把握と意識改革

#### 実態の把握

1,375社の返品実態を分析

主な返品理由

ロット切迫・切れ：69%	1/3ルール：10%	定番カット：10%	店舗改装：4%
--------------	------------	-----------	---------

#### 課題の抽出

返品データの可視化	返品データを卸別、チェーン別、店別、商品別に表示するシステム作成
原因の究明	卸別、チェーン別に
卸別に改善計画立案	削減方法、目標削減金額

#### 問題解決のための課題

適正な発注・在庫数	異常発注アラームシステム稼働
ロット別出荷管理	1/3ルール先の登録制（1/3+7d）
専用センター化	チェーン専用のため転用不可 在庫管理の徹底
製配販で取り組み強化	実態を共有し、削減取り組み（役割分担）

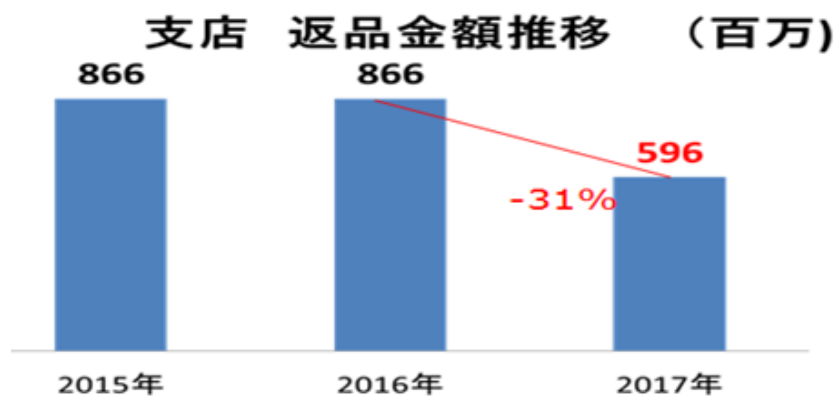
#### 削減のポイント

不当な返品防止（ルール）

発注・在庫数の適性コントロール（特に初回発注時、季節品、セール時）

大塚製薬株式会社2018.07

## 「返品削減」 返品金額推移



2017年度は取組が大きく寄与、2016年度に対し31%の削減につながった。